

# 甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価書（平成29年度）

平成30年 3月 5日（月）

平成29年度学校関係者評価委員会

実施日：平成30年2月28日（水）午後4時～

会 場：敷島中学校校長室

参加者（学校関係者評価委員）

河西壽人 五味和恵 保延浩子 岩間由弥 石合雅史

（学校側）

長田 靖<校長> 立川 武<教頭>

## I 学校側から提示した資料

- (1) 平成29年11月に実施した「教職員の自己評価」、「生徒アンケート」、「保護者アンケート」の分析結果と、課題点及び改善策を示した「自己評価書」
- (2) 比較集計結果表（昨年度と今回の生徒・保護者アンケート，教員自己評価の比較）
- (3) 「創甲斐教育推進大綱」に示された目標値との比較と改善策

## II 協議された主な内容

- (1) 自己申告書及び生徒・保護者アンケートの結果にもとづき，本校の教育活動や学校運営についての課題が正しく把握されているか，改善策が適切であるか等について協議した。
- (2) 生徒や地域の様子，今日的な教育課題などについて意見を交換した。

## <学校関係者評価書>

### 1 全体評価

前年までと同様に，全体的に高い評価であった。教師の自己評価においても「学校経営」，「学校運営」，「学習指導」，「生徒指導」，「地域との連携」，「学校の特色」の51項目において，38項目がA・B（そう思う・ややそう思う）の合計が90%以上と肯定的な回答が多く，高い意識で教育に取り組む姿勢がうかがえる。一方，C・D（ややそう思う・思わない）評価が合わせて全体の1割を超えるものが12項目あり，慎重な評価と考えることができる。

学校教育目標や経営方針が，実際の教育活動に反映されていると感じている職員の割合は高いが，「職場の福利厚生や健康管理への配慮」に対するA・Bの合計は86.1%と他の設問に比べるとやや低い。人数の割に手狭な職員室や，勤務時間の管理，多忙化の解消などの課題への取組が必要と思われる。また，道徳の時間の指導や不登校解消への取組，特別支援教育に対するスキルの向上等が今後の課題と考えられる。

全般的には職員が協力し，同一歩調で教育活動にあたっている様子がうかがえる。その結果として，生徒が落ち着いて学習に取り組み，安定した学校生活を送ることができていると思われる。これは，日頃から職員が生徒の様子を観察し，的確な指導を行い，学校全体で指導にあたった成果ではないだろうか。

#### (1) 保護者アンケートについて

全般的に，学校の教育活動に関して肯定的な意見が多い。25問中，A・Bの合計が前年

を上回った項目が18ある。また、半数以上の項目で甲斐市全体の平均を上回っている。

逆に、肯定的回答の低い項目は「家庭学習」や「読書」、「地域行事への参加」などである。家庭や地域との連携が欠かせない内容である。学力の定着と向上に向け、自主学習の定着を図り、自ら課題を探して取り組む面での指導を行ってほしい。

## (2) 生徒アンケートについて

「学校が楽しいか」に対しては、A評価（そう思う）とB評価（ややそう思う）の合計が92.6%であり、「困ったことがあったら相談できる友達の存在」や「人が困っているときは進んで助ける」等の結果と併せ、多くの生徒が概ね「楽しい」と感じており、全般的に生徒は学校生活を肯定的にとらえている様子がうかがえる。

「授業（勉強）でわからないことを先生に聞くか」や「授業中に発言するか」という設問では、肯定的回答が前年より10ポイント前後増えた。授業の目標を提示して学習に見通しを持たせ、授業の終わりに振り返りを行う「やまなしスタンダード」に則った授業づくりが功を奏しているようだ。

## 2 特徴

- ・ 教職員が一人一人への生徒理解に努めている様子がうかがえる。今後も引き続き、信頼関係を大切にしながら教育活動を進めて欲しい。
- ・ 生徒は学校の特色を理解し、諸活動に前向きに取り組んでいる様子が見られる。
- ・ 学校の教育活動について各種たより、ホームページ等様々な手段で保護者や地域に広報している。学校評価についても、ホームページに掲載されているので、多くの方々に読んでいただきたい。

## 3 今後の課題として意識されたいこと

- ・ 生徒の豊かな人間形成において、その最良の教育環境と言うべき教職員が、心身共に健康でなくてはならない。定時退勤日を確実に実施していくこと等、メリハリのある勤務態勢を整え、同時に管理職による適切なケアに努めてほしい。
- ・ 小中連携で取り組んでいるあいさつ運動は、家庭や地域を巻き込み、職員のサポートも含めてより活性化させてほしい。
- ・ 敷中の伝統である合唱活動は、これからも自信を持って継続してほしい。上級生の取組が下級生への良い手本になり、学校文化になるよう高めてほしい。
- ・ 喫緊の課題である学力の向上を、今後どのように進めていくのか。子ども達に確かな学力を保証することは、保護者や地域からの信頼を得、学校としての社会的責任を果たすことになる。組織的、継続的に取り組んでほしい。

記載責任者 敷島中学校 学校関係者評価委員長 氏名：河西 壽人 印